

道路整備で伝わる地域の魅力



石見銀山ガイドの会 **和上豊子さん** (大田市)

山陰道がつながれば移動時間が短くなる分、見どころの多い銀山を、ゆっくりと満喫していただけるでしょう。情報発信を工夫すれば銀山だけでなく、柿本人麻呂ゆかりの地など、石見の観光地をつなぐ素晴らしい観光ルートができるはずです。

線をつなぎ、面で生かす

団体ツアーから個人旅行が主流になる中、感じるのは、旅の目的の変化です。銀山を訪れる方も間歩や建物より、縁側にたたずむ人々の会話、間歩に向かう道に咲いた草花、鳥のさえずりなど地域の雰囲気を楽しみ、感動



石見銀山の大森の町並みを散策する観光客
=大田市大森町

される方が増えています。日本の原風景、心の故郷のようなものを求め、何度も訪れる方もいらっしゃいます。こうした魅力ある場所が、島根にはたくさんあります。

ただ、そうした場所は「点」在し、交通の便が悪く、観光客にも分かりづらくなっています。この「点」をつなぎ「線」としていくには、高速道路など道路整備が欠かせないと思います。さらに、この「線」を「面」へと広げ、地域全体で観光客をお迎えするには、積極的な情報発信とともに、我々もてなす側の役割も大切になります。

わかみ・とよこ

1942年生まれ。小学校の社会科教諭を務め、大田市立久屋小学校校長を退職後、2002年に石見銀山ガイドの会に入会し、ガイドを始める。石見銀山遺跡の世界遺産登録後の08年から4年間、同会会長を務めた。現在も、同会の一員として、銀山を訪れる観光客に、遺跡の魅力や歴史的な背景を分かりやすく伝えている。

尾道松江線延伸で観光客増

減少が続いていた石見銀山の観光客は、昨年51万人が訪れ、一昨年より約2割増えたんですよ。出雲大社の「平成の大遷宮」とともに、尾道松江線が中国道まで伸びたのが大きかったですね。駐車場では、広島や愛媛のナンバーが明らかに増え、高速道路がつながる効果を実感しています。「便利になった」と日帰りで訪れる広島の方、九州からの個人客もよく見かけますね。

山陰道の仁摩・温泉津道路も本年度に全線開通します。大森から車で数分の場所にインターチェンジができ、浜田道を使えば、ますますおいでやすくなります。私たちガイドも「お客様の地元と銀山はこんなつながりがあるのですよ」などと紹介すると、より熱心に耳を傾けて頂けるので、山陽をはじめ、四国、九州など全国各地と石見銀山とのつながりを説明できるよう、勉強は欠かせません。

移動時間の長さが課題

島根県全体を見ると、山陰道は半分がつながっていません。石見銀山の観光客も出雲大社とセットで回る方が多いですが、益田や津和野経由のお客は少ないのが現状です。移動時間の長さが理由でしょう。先日お会いしたお客さんは午前中に萩を観光し、どこにも寄らず、石見銀山へ来られました。着いたのは午後4時過ぎ。午後5時に閉まる龍源寺間歩の見学はあきらめ、街並みを観光した後、残念そうに出雲の宿泊先に向かわれました。歩いて観光する石見銀山を楽しむには3時間はほしいところ。移動時間が滞在時間を縮め、魅力が伝わらないのは惜しいですね。

Memo

2013年の島根県内主要観光地の入り込み客数

観光地	市町村名	入り込み客数	前年比(%)
足立美術館	安来市	65万8千人	150.2
松江城	松江市	40万4千人	145.8
八重垣神社	松江市	50万1千人	146.4
出雲大社	出雲市	804万人	230.8
石見銀山	大田市	51万2千人	118.4
アクアス	浜田市	37万5千人	96.8
太鼓谷稲荷神社	津和野町	52万人	92.5

島根県観光動態調査(速報)によると、2013年の島根県の観光入り込み客は延べ3681万5千人と前年比26.1%増えた。出雲大社の「平成の大遷宮」と尾道松江線延伸による効果が大いいと見られ、出雲大社が前年比2.3倍の804万人を記録。松江城、八重垣神社、足立美術館でも5割前後伸び、県東部の観光地は賑わった。一方、西部では、石見銀山遺跡が増えたものの、アクアスや太鼓谷稲荷神社は減少。豪雨被害や東部からの移動時間の長さも影響し、波及効果は限定的だった。